

SG6

「かたちづくり」の数理を
発見しよう！

縞枯れ現象をドローンで見て数理解析

亜高山帯の針葉樹林でシラビソ、オオシラビソの優占林における木々の立ち枯れ等により、山が縞模様のようになる現象のこと

日本では、八ヶ岳山系、八甲田山系で観察できる
海外では、アメリカ合衆国北東部で一部見られる



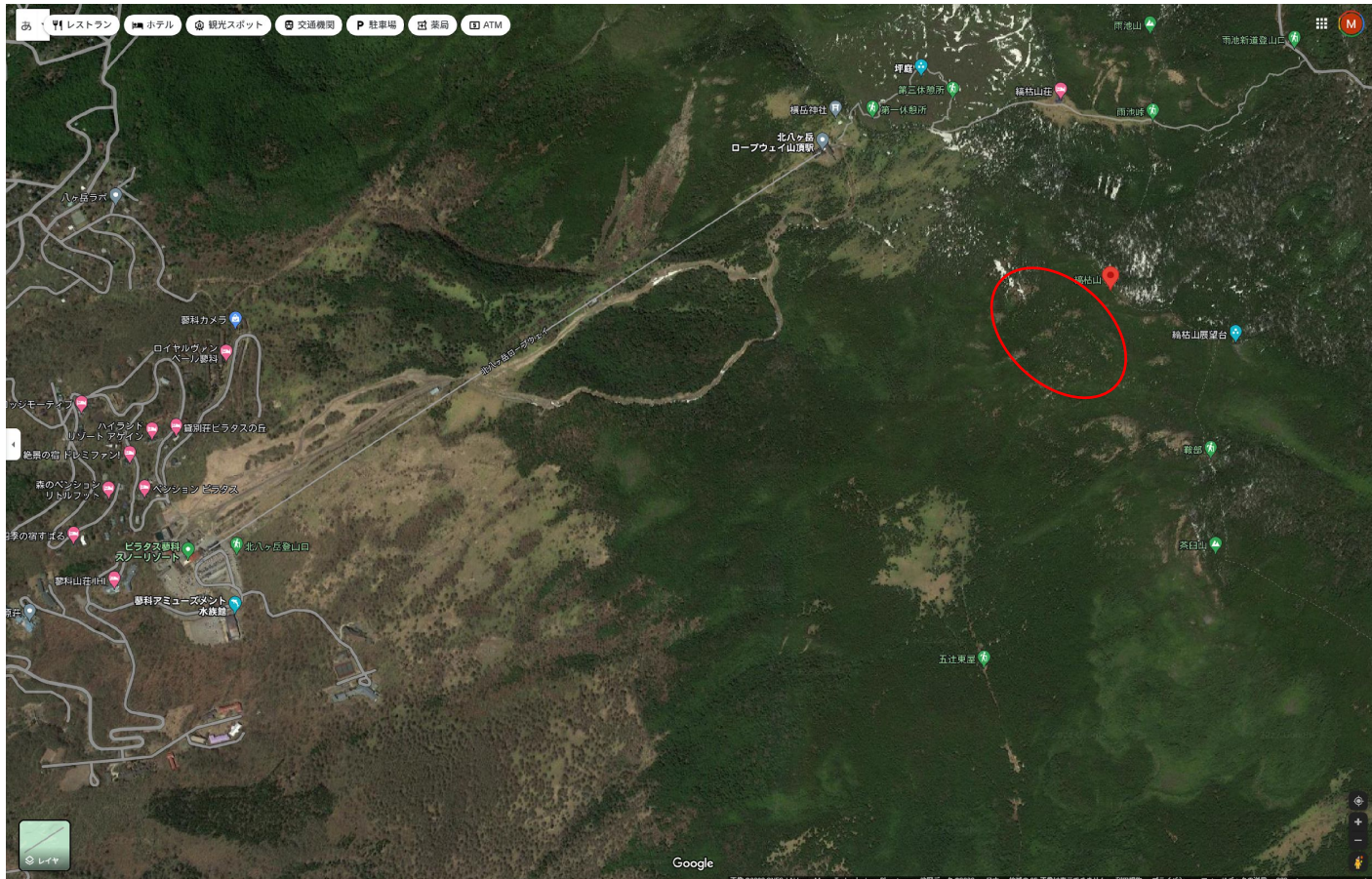
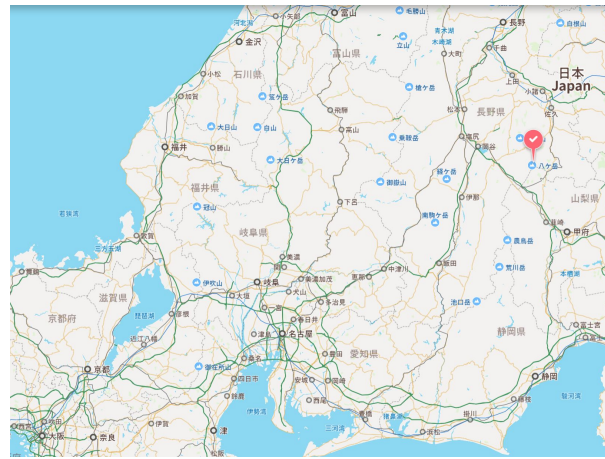
(wikipediaより)



観測時に撮影

ターゲット

・どの様に何を可視化するか？



北八ヶ岳から縞枯れくつきり 森林が自然「伐採」

近藤幸夫 2020年10月30日 10時30分

シェア ツイート B!ブックマーク メール 印刷



広大な針葉樹の原生林が広がり、なだらかな山容で登山者の人気を集める北八ヶ岳。中でも、縞枯山（しまがれやま）（2403メートル）周辺は、帯状に樹木が立ち枯れする「縞枯れ現象」が観察出来る長野県内でも珍しい山域だ。好天に恵まれた26日、積雪期を前に北八ヶ岳を縦走登山した。

茶臼山から見た縞枯山の南西斜面。白い縞の部分
が枯れた樹木=2020年10月26日午前8時49分、北八ヶ岳、近藤幸夫撮影



コースは、麦草峠～茶臼山（2384メートル）～縞枯山～北横岳（2480メートル）～麦草峠と、北八ヶ岳北部を周回した。茶臼山から縞枯山を望むと南西斜面に縞枯れ現象がはっきり確認できる。縞枯山山頂近くの登山道では、枯れた樹林帯を間近で観察できた。

この現象は、森林の天然更新の一種。「北八ヶ岳ロープウェイ」のホームページで、そのメカニズムを解説している。枯木帯と成木帯に分かれて年々移動しており、人為的な伐採は行わない自然のサイクルという。「観光客からの問い合わせが多く、紹介しています。ただ、正確な原因は完全に解明されておらず、あくまで仮説の一つ」とスタッフは話す。

同ロープウェイは通年営業で、茅野市の山麓（さんろく）駅から山頂駅（2237メートル）まで標高差466メートルを約7分で結ぶ。溶岩台地の坪庭などの高山帯の散策が楽しめるほか、縞枯山や北横岳への登山口でもあり、週末には県内外から大勢の観光客や登山者が訪れる。

登山当日は、雪がなく秋山装備で踏破できたが、11月以降はいつでも雪景色となる可能性があり、登山にはアイゼンなどの滑り止めが必要だ。問い合わせは同ロープウェイ（0266・67・2009）へ。（近藤幸夫）